Heroldo de HEL

N-ro38　jan.- feb.,　1991

北海道エスペラント連盟
068 岩見沢市1条東6丁目　法然寺気付
ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO:
Iwamizawa-si,Itizyo,higasi-6-tyôme,
Hônenzi-kizuke,　068 Japanio

地球のせまさが実感できる今こそ

エスペラントをひろめ、エスペランチストをふやそう

たとえ、わたしたちがザメンホフの理想を語り、「国際化」時代にふさわしい共通語の必要を説き、旅行・文通で実証されたこの言葉の有用性をみずからの体験を例に示し、この言葉を使用した対等な関係での民際交流を誇ったとしても、しかし現実にはわれわれの文化運動――エスペラント運動は市民のなかではまだ少数派でしかありません。

「国際化」が喧伝され、自治体レベル、市民レベルでの国際交流がさかんになっても、それは英語、中国語、ロシヤ語など大言語を介してのものです。国際交流そのものに異議はありません。しかし、もし、その交流が言語を異にする市民の心の交流や相互理解を目的とするなら、そこでは大言語習得の機会にめぐまれなかったごくふつうの市民が言語的不平等なしに、大言語を母語とする相手と深く、相互に理解しあえる条件はあるのでしょうか。それとも、逆にわたしたちの母語を相手に強いるのでしょうか。

エスペランチストは、エスペラントが言語的不平等と無縁に、ふつうの市民が国境をこえて自由に交流できる唯一の言語であることを確信しています。英語＝国際語の図式が当然とされる風潮にあっても、エスペラントの輝きは曇ることはないのです。むしろ交通手段・衛星通信が発達して、地球の狭さが実感できる今こそ、母語を異にするふつうの市民の相互理解のために、双方が学ばなければならない中立の言葉が必要とされるのです。

世界史的変動が続くなか、ヨーロッパからもアジアからもエスペラントの風が吹いてきています。遠慮は無用です。こんなときにこそ、エスペラントについて大いに語り、身近なところでエスペランチストをふやしましょう。さまざまな文化運動や市民運動の分野でエスペラントが認知されるよう、一人ひとりのエスペランチストがエスペラントの風を吹かせましょう。

わたしたちの文化運動を他と識別する最大のものはいうまでもなくエスペラントの実用です。わたしたちがふだんエスペラントを自然に使うことが、エスペラントをひろめ、市民から認知されるうえで決定的に重要です。

今年1年、大いに読み、書き、話し、地方会と連盟を大きくして来年の連盟創立60周年をむかえましょう。　（カ）

★第55回北海道エスペラント大会
1991年09月28日（土）／29日（日），札幌市

5月連休は北海道合宿

今年の合宿は5月3／4／5日（金土日）、昨年と同じ札幌市南区滝野・札幌市青少年山の家で。

小西岳さんが講師です。案内書を後日お届けします。

編集部解説

第53回北海道大会（89年、札幌）、第54回大会（90年、苫小牧）に提案された木村喜壬治氏の「北海道エスペラント大会のエスペラント表記改正の件」（大会表記を Hokkajda Kongreso de Esperanto、または Hokkajdo-Kongreso de Esperantoに変更する）は先の大会で機関誌上での研究、討論に付されることとなった。

すでに編集部あてに3人から意見が寄せられているが、以下に紹介のとおり、問題の所在は「大会名称」の範囲をこえようとしている。

編集部は今号からこの問題をめぐって（関連する諸問題もふくめて）の誌上研究・討論のページを設定する。この「論戦」が会員の言語研究の契機となり、また Esperantologio へのささやかな寄与となることを期待する。

これ以上はいわない。ここでは、現行の連盟規約の関連条項と、故・相沢治雄氏の論文の抜粋だけを載録して、新旧会員の論戦参加をうながすだけとする。　(Kk)

＊＊

北海道エスペラント連盟規約　から
（89年10月01日　第10回改正）

第1条（名称）　この連盟は北海道エスペラント連盟（Hokkajdo Esperanto-Ligo ないし Hokkajda Esperanto-Ligo ）と称し、事務局を北海道内におく。

第5条（大会）　この連盟は、年1回北海道エスペラント大会（Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo）を開催する。

北海道大会は "la XXa Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo" でよいのか？
木村喜壬治　（札幌）

昨年の大会で持越しとなった上記について一言。大会の表記については、これまで大会で決めたことは一度もありません。戦前はすべて日本語で書きました。その後は、その年の準備委員が決めて、ポスターの裏紙とか、模造紙に書き込んで掲示していました。中には看板屋に書いてもらったのもあります。

小生のアルバムの中から拾ってみると次のように表現されています。

1957（小樽）
　La 21a HEL Kongreso
1961（札幌）
　La 25a Kongreso de Hokkajdo-Esperantistoj
1963（小樽）
　La 27a HEL Kongreso
1964（室蘭）
　La 28a Hokkaido-Esperanto-Kongreso
1965（札幌）
　La 29a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo
1968（札幌）
　La 32a Hokkajdo-Kongreso de Esperantistoj
1969（函館）
　La 33a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo

1969年からは布地に書いて掲出されたので、その後は持回りしたように思います。一昨年の準備委員の間で、随分汚れたので新調する話があり、終了後廃棄された筈です。昨年の大会前日に、大会の看板がないというので私が書かせてもらいました。日頃考えていた最も簡潔な表現で。それが物議をかもしたのです。 Pardonon mi petas.

付記：大会で決めたものに北海道をどう表現するか、がありました。 Hokkaido か Hokkajdo か。これは、永田明子さんの熱心な esperantologio の講義に悦服して Hokkajdo になったことを記憶しています。また、1988年の札幌における日本大会終了後、日本エスペラント学会に日本大会のエ

ス語表記 la XXa Kongreso de Japanaj Esperantistojを la XXa Japana Kongreso de Esperanto に改めるよう提案して、ヤマサキ　セイコーさんから受領した通知を受取ったことがあります。どうなったことやら。

北海道エスペラント大会の
正式名称について
佐々木将人　（函館）

1　はじめに

去年9月の大会の際、エスペラント語での大会名称について札幌の木村さんからの提案に対し、私が反対したことについてはヘロルド37号に掲載されたとおりです。しかし、あれだけ強固に主張しておいてあとはなしのつぶてというのでは「無責任」の一語につきるでしょう。そこで私の考えていることを少々述べさせてもらいまして、会員各位の批判研究を待ちたいと思います。

なお、私は「HOKKAJDO」には賛成できないものの、その他の点についてはそれほど固執していません。以下の論点では全て個人の意見というよりは、「こういう点での検討が必要ではないか」という発言にすぎませんので、その点御了解ください。

2　大会の正式名称に使用する言語は何か

（「エスペラント語に決まっているだろう。佐々木は何を言っているのか。」と言われるのが目にみえてるなあ。）

可能性としては、日本語のみだ、いやエスペラント語のみだ、国連や外交の場合と同じように双方が公用語なんだという3つがあり一概にどれをも否定できないと思います。そして、どの立場をとるかで以下の点に対する態度が微妙に変わってきます。

3　大会の正式名称を厳格に定める必要があるのか

日本エスペラント大会の場合には大会常置委員会というものがあり、大会開催についての連続性が保たれています。しかし、北海道大会にその種の組織は存在しません。また本来主催であるべき北海道連盟と実際に大会準備をする地方会との関係もはっきりしていません。そういう状況であるならば、大会準備をする地方会にまかせてしまうというのも選択肢としてはありえます。逆に大会の正式名称と共に大会が引き継がれていくというのも意見です。その意見に立つならば、過去の記録を整理してその名称を確認する必要が出てくるでしょう。

4　大会の性格付けと名称が関連するのか

日本語による名称が「北海道エスペラント大会」というある意味では幅の広い、ある意味では漠然としたものである点に注意が必要です。

これを、そもそも漠然となるように定めたというように読み取れば大会で行われた「北海道（在住）のエスペランチストの大会」か「北海道で開かれるエスペランチストの大会」かという議論は、実は無意味なものであります。

一方、日本語の方は言葉の特性によるもので仕方ないのだ、という議論もできます。事実、大会の名称に上記議論を反映したような日本語の名称を採用している地方会は存在しないのではないでしょうか。

もし後者に立つならば、北海道エスペラント大会の性格を厳格に定義する必要があるでしょう。（事実、大会の議論もこの点に集中していました。しかし、私はその前提条件が当然のものとして与えられていたことに多少戸惑いを感じています。）

5　固有名詞を形容詞化する時の問題点

JAPANOはJAPANAになり、TOKIO はTOKIA になるのであれば、HOKKAJDOがHOKKAJDAになるはずだ。これはもっともです。しかしちょっと待ってください。JAPANOやTOKIO の変化には別の理由があります。

エスペラント語の語彙の多くが「語幹＋語尾」の構成をとっていることは事実です。そして日本や東京の語幹は「JAPAN-」「TOKI- 」であるのもおそらく間違いないでしょう。

しかし、日本の地名の全てについて、末尾の母音を取った形が、エスペラント語になるのだとい

うのは少々乱暴ではないでしょうか。フィンランド語のように固有名詞も格変化をするために形が変わってしまうという場合にはそれもよいでしょうが、日本語では地名は変化をしません。言葉を他と区別すべき語幹の部分は末尾の母音をとらない形「TOKIO 」であると解するべきです。無理やり語尾を変化させなくともよいでしょう。 ANTAU が ANTAUA とか ANTAUE になる例もあります。現地の人が「森」と自分の街のことを言っているのに、エスペラント語で「森の」というのが「MORA」となるのはおかしいし、横浜の名詞形が本来「YOKOHAMO」だとか「YOKOHAMAO 」なんだというのもおかしいものです。

言葉ではよく使われる程変化するという原則があります。日本や東京は、その原則によって例外的に変化をしたとすべきで、北海道という地名を安易に「ほっかいだ」と変化させてしまうのは、地名を大切に考えてないという点で、住居表示の実施と共に古い地名を捨ててしまう行政担当者と同じ誤りを犯しているといえましょう。もし「HOKKAJDO」が「HOKKAJDA」になるとすれば、北海道以外のエスペランチストが、そのように使うので仕方がないという状況下にするべきで、我々から変える必要は全くないと思うのです。（ついでに言うと「HOKKAJDO」ではなく「HOKKAIDO」だと思っていますが、今回の本題からはずれるのでこの位にしておこう。）

6　造語法だって問題だ

英語やフランス語式に考えれば「A de B」という形が自然ですし、「B　A」というのも（否定的な意見もありますが）ありえましょう。「B a A」だってあれば「B- A」もあり、ドイツ語のように結合させて一語にするのも手です。

7　結　語

正式名称については私が思いついただけでもこれだけの論点があり、さらに別の論点もあるでしょう。会員各位の検討と活発な議論により、良い結論を導き出しましょう。

北海道エスペラント大会の表記について

星田　淳　（苫小牧）

昨年の大会で S-ro 木村喜壬治の提案によって若干の討論があったが結局結論に至らなかった。ここで問題を整理してみる。

現状：Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo
（連盟規約第５条）

木村案－１：Hokkajda Kongreso de Esperanto
（Heroldo de HEL　N-ro 33,p8）

木村案－２：Hokkajdo-Kongreso de Esperanto
（Heroldo de HEL　N-ro 37,p5）

木村案が二つになっているが、１は一昨年文書で提出されたもの、２は昨年でてきたもので少し変わったが、いずれにせよ皆に表記の問題を考えようと呼びかける点は同じである。以下１案、２案と呼ぶことにする。

ここで現在使われている例をあたってみよう。

１案の形、つまり固有名詞の形容詞形を使う例はたくさんある。Brita Kongreso de Esperanto 、Itala Kongreso de Esperanto 等。少し形を変えた Svisa Esperanto-Kongreso 式も多い。国名でなく地方、地域の名の形容詞形では、Ontaria Esperanto-Kongresoや Baltia Esperanto-Kongreso 等の例がある。

２案の＜名詞形＋ハイフン＞の例は、ほとんどが Esperanto-Kongreso の場合で、名詞が地名の場合は全く見当たらなかった（過去１年のＵＥＡ機関誌とＥＰĈを調べた）。

この名詞が地名でなく団体名ならば例がある。IFEF-Kongreso ， SAT-Kongreso 等長い団体名の略。（注）IFEF＝Internacia Fervojista Esperanto-Federacio ， SAT＝ Sennacieca Asocio Tutmonda.

国内での例を見よう。

Kongreso de Japanaj Esperantistoj

Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

Esperanto-Kongreso en regiono kantô

以上代表的な３例を示す。第２例が現在の北海

道連盟規約と同じ方式である。

固有名詞の形容詞化について疑問を感ずる方もあるようだが、以上の例で見るように、これは全く一般的に使われている。エスペラントを実用する以上、エスペラント文の中では文法的変化をするのは当然だろう。それをさせなければエスペラントの中ではその言葉はいつまでも外来語のまま、ということになる。

上に示した第２例は関西エスペラント大会だがこれを主催している関西エスペラント連盟の略称はＫＬＥＧ。その plena nomo は、

今は、 Kansaja Ligo de Esperanto-Grupoj

当初は、Kansai Ligo de Esperanto-Grupoj

だった。

なぜ変えたのか。当初の Kansai は外来語のまま、つまりエスペラントの形になっていない。組織名に地名をかぶせる場合の例を見ると、ほとんど Flandra Esperanto-Ligo , Ĉina Esperanto-Ligoのように、形容詞化された形を使っている。自らの組織のエスペラント名である以上、地名もエスペラントの形にしようとしたもの、と私は思う。

過去２年間のＵＥＡ機関誌を調べて、エスペラント化してない外来語の地名の入った大会名を一つだけ見つけた。

Esperanto-Kongreso de Baden-Wittemberg

その地域の人だけの大会ならいいだろう。しかし、空路ならばヨーロッパ、北米に一番日本国内で近く、国際化しつつある北海道の「国際語」大会の名が国際化していないとすると、おかしくないだろうか。

"Hokkajdo" という表記について

相沢　治雄

(LEONTODO n-ro 48,1972/12 から抜粋)

．．．．Ｉの代りにＪを使ったのはもうちょっと古く、1933年、第２回北海道エス大会の報告書 La Raporto pri la Dua Esperanto Kongreso de Hokkajdo 1933 Sapporo Esperanto Unio kaj Hokkaido Esperanto Ligo （編輯兼発行人　相沢治雄）と書かれたのが初めてです。このＪは表紙のかざり字体にだけ、恐る恐る使ったので、その外報告書の内容等には一切Ｊは使いませんでした。

私は、 HOKKAJDO とＪを使って見たらと思ったのは次の理由からです。

HOKKAIDO と書いた場合、外人Esp-istoはホッカイードと読むだろうという懸念がある。また、何かHokka 又はHokko というものがあって、その ido のような感じがする。いっそエス式にHokka-jdo と書けばホッカイドー又はホクカイドーと読めるだろう、ということで試みにＪを使ってみたのです。聯盟の名称は規約にあるのでそのままＩとし、本文中にもＪを使用したことはありません。表紙は装飾用の字体を用いたので、これだけＪを使ってみたのです。

．．．．

HOKKAJDO の場合も前にも記したようにホクカイドーと読む外人がいても意味は分かるし、ホクカイードとかホッカイードとか言われるよりは、北海道の正しい発音に近いと思われて使用したのです。もし、ホッカイドーと読んでくれれば、エスペラントに促音がないという原則に反する矛盾はありますが、北海道の正しい発音に近くなると思います。

また、HOKAJDO の形も考えて見ましたが、促音がなくてエス的かも知れませんが、北海道の発音に遠ざかるような気がして使ったことはありません。

そんなことで、Ｊが初めて用いられたのは1933年で、その後、札幌エス会の機関誌にも使用するようになり、道内の S-anoj の間でもしばしば使われていましたが、1968年ＨＥＬ発行の観光案内ＨＯＫＫＡＪＤＯで一般的に使われることが決定的になったと言えましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

POŜATLASO DE LA MONDO ：Ｅ版小形世界地図帳。チェコスロバキア、1971年刊、ＪＥＩに在庫あり。

ここでは、Hokajdo,Saporo,Tomakomajo,Asahi-gavo,Vakanajo,Jubaro, ……と記載。 800円。

`90～`91年 年越講習会に参加して

佐藤　布美子

今回初めて１２月３１日から１月３日までの亀岡市大本本部で行われたエスペラント年越講習会（主催・大本エスペラント普及会）に参加させて頂きました。　今年は韓国から２１名が参加したほかベルギー・スイス・アメリカ・ブラジル・イギリス・中国・日本の８か国から９０名が参加。入門から会話までの１１のグループに別れて、それぞれ講師の元に学習会を行い行いました。学習の合間には韓国の方の歌の披露などもあり賑やかなものとなりました。

３１日には、除夜釜の席がもうけられ、エスペラントの通訳で韓国からのエスペラントの方々と一緒に入席させて頂きました。その後外で振る舞われた甘酒を少し頂きながら、韓国やアメリカのエスペランチストの方と夢中になって話しながら年が明けるのを待ちました。

２日目は分科会があり、４つくらいあった中で私は「外国のエスペランチストと話そう」というプログラムに参加。ここでは韓国人一人を日本人が２～３人で囲んで自由に会話するというものでしたが、あまり海外のエスペランチストの方と会話などしたことの無い私は、ただ知っている単語を並べているだけという感じです。それでも自分にとって勉強にもなり、とても楽しく過ごすことが出来ました。夜は部屋を変えてＰａｒａｄｉ－ｚｏ（自由懇談）韓国や日本の青年による歌などで夜遅くまで交流が続きました。

３日目の学習会の中で韓国からの李仲琦さんが私たちのグループに来てくれて、エスペラントと夢について、それぞれ作文しそれを話すといった事もしました。Ｇａｊａ　ｖｅｓｐｅｒｏでは、エスペラントを使ったゲームをしたり、絵はがきに自分の住所を交換しあいました。この日は期間中で、海外からのエスペランチストの方々とふれあう最後の夜ということもあって、Ｇａｊａ　ｖｅｓｐｅｒｏも大変盛り上がりました。しかし終わってもなかなか解散することが出来ず、そのまま韓国の方が宿泊されていた部屋まで行ってしまい、はじめは女の子９人でゲームをしたり、話をしたりしていたのですが、どんどん人が増えてきて気付くと２０人くらいになり、すっかり部屋が狭くなってしまったほどです。

今回はこの講習会に参加して、韓国の方のエスペラントに対する意気込みのすごさに驚きました。始めて２・３ケ月の人が多い筈なのに、話すときにはとても積極的で始めたばかりとはとても思えないのです。海外の方とエスペラント語でわずかでしたが話せたことの喜びを実感して、私も負けないようにエス語の学習に力を入れて、また参加させて頂こうと思っています。この年越講習会は、とてもすばらしいものでした。皆さんもぜひ参加してみてください。

今後予定されている行事

《韓国エスペラント協会行事》
冬季全国ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ合宿　テジョン　2月23-25日
日韓ｴｽﾍﾟﾗﾝﾁｽﾄの合同登山　ソウル　3月29日-4月2日
夏季全国ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ合宿　テジョン　7月または8月
第23回韓国ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ大会　ソウル　10月　19-20日
《大本エスペラント普及会行事》
春季スペラント講習会　亀岡　3月23-25日
国際ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ合宿　北九州市大本筑紫本苑　4月28-30日
第10回日韓ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄｾﾐﾅｰ　亀岡　8月2-4日
《今後アジアで行われる予定の国際行事》
第10回日韓青年ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄｾﾐﾅｰ　亀岡　`91　8月
第5回太平洋大会　チンタオ　`92　8月
第80回日本エスペラント大会　亀岡　`93　8月
国際青年エスペラント大会
世界エスペラント大会　ソウル　`94　8月

この情報は佐藤布美子さんより頂きました。

肩の凝らない エスペラント語 (1)

高橋 要一

ながい長い間エスペラント語に親しんで、いくらかは<1> エスペラント語の本に接してきたが、手紙を書いたり<2> ましてや<3> 会話ともなるとなんとなく構えてしまってすらすら<4> といかない。エスペラント語を勉強したといっても訳読が主で、単語や語句の意味ばかりに頭を使っている。

会話の場合、相手の言うことが分っても、返事となるとまず日本語で考えて、それをエスペラント文に組み立てる。これでは時間がかかって<5> 会話の面白味が半減してしまう。ちょっと<6> 構想を変えてみよう。自分がよく使う語句をエスペラント語で覚えてしまったらどうだろう。手紙を書くにも、会話するにも、ぐっと楽になると思うのだが！

以下、出典は宮本正男編『日本語エスペラント辞典』(1982年, 日本エスペラント学会発行) を主にしていろいろな読み物等から。

<1> いくらかは　iom ; iomete

☆いくらかの金　iom da mono

☆体の調子がいくらか良い　Mi estas iom sana.

いくらでも (数量)

☆いくらでも差し上げます　Mi donas iom ajn laŭ via postulo.

いくらも (たくさん)　multe ; multaj

(あまりない)　ne (tiom) multe

☆もういくらも残っていない　Jam restas ne tiel multe.

<2> たり

☆書いたり話したりする時　kiam mi skribos aŭ parolos.

☆行ったり来たりする　veni kaj reveni

☆晴れたり曇ったりの天気　jen serena jen nuba vetero

☆子どもは泣いたりわめいたりした　La infano jen ploris jen bruegis.

<3> ましてや (肯定)　ankoraŭ pli

(否定)　ankoraŭ malpli

☆Aでもむずかしい、ましてやBには到底できない　Tio estas malfacila eĉ por A, des pli por B.

☆必要品も買えない、ましてやぜいたく品などは　Mi ne povas aĉeti eĉ necesaĵon, des malpli luksaĵon.

<4> すらすらと　glate ; facile ; senĝene

☆すらすらした文体　glata stilo

☆ことはすらすら運んだ　La afero iris glate.

<5> かかる (要する)　bezoni ; postuli

☆5日かかる　bezoni kvin tagojn

☆1000円かかる　kosti mil enojn

☆修理に時間がかかる　La riparo postulas tempon.

☆金のかかる事件　monbezona afero

◎「かかる」という語は他に種々の意味があるので調べよう。

<6> ちょっと (少しの間)　por momento ; iom da tempo

☆ちょっとお待ちください　Atendu iom da momentoj.

☆ほんのちょっとの間に　en tre mallonga tempo

☆ちょっと前に　ĵus ; antaŭ ne longe

☆もうちょっとすれば　tuj baldaŭ

☆彼女は喜んだが、ほんのちょっとの間だけだった　Si ekĝojis sed nur momente.

Plezure Amikiĝinta Kariba Kongreso

-- daŭrigo de la antaŭa numero --

YAMAGISI Etuko (Sapporo)

Miaj horloĝoj braka kaj stomaka haltis

Daŭre la du junaj kubanoj gvidis min kaj SEGAWA-san al la Urba Muzeo en kiu oni metis la materialojn koncerne al sendependiga armeo, al la Koloniala Muzeo kie oni povas imagi antaŭlongatempon kiam kuba lando estis la kolonio de Hispanio, kaj al la katedralo konstruita en 1704 laŭ la baroko 'kubeska'. Ili ankoraŭfoje demandis min, ĉu ni ne volas manĝi ion. Mi respondis: "Ne, dankon. Ni nenion volas manĝi pro laco kaj varmego." Sur iu strato maljuna virino vendis fruktojn. Sur la tirĉaro mango, melono, banano, oranĝo, papajo, tomato ktp. Ricardo subite alproksimiĝis ŝin kaj aĉetis du grandajn mangojn por ni. Li diris al ni, ke manĝu tiujn post du aŭ tri tagoj, tiam ili fariĝos plej bongustaj. Ilin ni kunportis al Mekisikio kaj post tri tagoj ni formanĝis. Tre bongustaj!

Tie kaj ĉi tie ni fotis unu la aliajn kaj promenadis scivoleme kaj ni revenis la kongresejon kontente. Apenaŭ ni atingis la kongresejon, ili forkuris ien. Poste ni informiĝis kial ili tiel rapidis. Ĉar ili intencis partopreni en la maratoneta konkurso, kiun oni okazigos tiun tagon je la kvina horo. Mi hazarde vidis mian brakhorloĝon sidante iun lokon. Surprizante mi restis senvorta. Ankoraŭ ĝi montris la dekunuan. Ili estis malsategaj, kiam ili demandis nin pri manĝo, tamen mia brakhorloĝo kaj stomakhorloĝo ambaŭ haltis, ĉu ne? Ni perdis ankaŭ la maloftan ŝancon manĝi ĉiutagan manĝaĵojn de kubanoj. Do, ili revenis la kongresejon, sukcesinte la konkurseton kun malplenaj stomakoj kompatinde. Ni pardonpetis ilin pri nia stranga konduto.

Post kvin tagoj revenis mia valizo

Akompananto de nia karavano diris al mi, ke ne atendu kun espero revenon de la perdita valizo, ĉar ni estas en Centra Ameriko, kie tiu espero kapricas tute malrapideme kaj senrespondece.

Tiu afero okazis en la aerhaveno de Meksiko survoje al Kubo. Tie mia valizo estis erare forportita de iu kaj restis nur unu alia. Mi estis ege ŝokita. Malbona sorto baris al mi la vojon de la vojaĝo! En la valizo mi enmetis donacojn por miaj kubaj amikoj, kun kiuj mi amikiĝis en Roterdamo antaŭ du jaroj, kompreneble ankaŭ mian vojaĝnecesaĵaron. Tamen, diris al mi oficisto de aviada kompanio, ke ne ĉagrenu, nepre hodiaŭ revenos tiu homo, kiu erare forportis ne sian valizon, sed vian, do li certe sendos al Havano mian per morgaŭa flugo. Mi kredis liajn vortojn sincerajn.

Sed, ĝi ne aperis antaŭ mi la sekvintan tagon. En Havano mi pasigis la duan, trian....atendante la alvenon vane. La akompananto sendube klopodis kapti ĝin. Li tamen ripete diris "Ne atendu kun espero". Mi mem prefere devis iri al la aerhavenon por ricevi ĝin, sed mi ĝuis la Esperantujon, pensante ke la tasko apartenas al li, jes certe. Supozeble, li tamen ne iris la aerhavenon.

Nur en la kvina tago li pene kaptis mian valizon en la aerhaveno. Li diris al mi, ke tiu ĉi estas feliĉa afero. Kredeble, ĝi atingis Havanon en la sekvinta tago, pri kio la oficisto de Meksiko promesis. Plie, tiun

tagon ankaŭ japana junulino, malatente forportinta mian valizon venis al Havano, kune kun oficistino de kuba ambasadorejo en Japanio, kiu ŝajne povas paroli la hispanan lingvon. Ili tamen tute ne klopodis pri mia valizo, kvankam ili jam sufiĉe konis la cirkonstancojn. Pri ilia senrespondeca konduto mi sentis bedaŭron pli ol koleron, kiel samlandano.

La postkongreso en Meksikio

Lasinte la kariban insulon, ni ekveturis al Meksikio por ĝui la postkongreson. Tuj post alveno en Meksiko, ni aŭtobuse vizitis la faman pramidon "Teotihuacan". Unue, tiu grandskaleco konsternis nin, sekve ni vagadis en imago de la pasinta tempo, kie ankoraŭ ne aperis la eŭropa civilizacio. Sed, neatendite rompis la fantazion ekpluvego kun grandaj hajloj. Ni forgesis ke tiea altitudo estas superas du mil metrojn kaj nun estas pluvsezono. Oni diras, ke en mezameriko dum pluvsezono certe pluvas posttagmeze. En suda lando spertinte hajlon, ni ege estis surprizitaj!

La postkongreso celis vojaĝi la sudan parton de Meksikio, en kiu la plej multo de la loĝantaro estas indiĝenoj: urboj Taxco, Cuernavaca kaj Oaxaca. De la 22-a ĝis la 28-a de julio, mi spertis kulturon iom diferencan kun tiu de Eŭropo.

Iuj usonaj gesinjoroj aranĝis tiun ĉi vojaĝon. Minimume okdek personoj per du aŭtobusoj veturis. Tute turisma vojaĝo ĝi estis. En nia buso ĉiĉerono de indiĝeno parolis hispane kaj usona sinjoro bone esperantigis la paroladon. Por mi tio estis tre bona ekzercado de Esperanto, kaj sidi nejbare kun alilandanoj en la buso kaj manĝi kun ili ĉe sama tablo en hotelo ankaŭ tre bonaj.

Ni tranoktis du noktojn en la urbo Taxco, kie estis bone konservata la kolonia periodo, protektate de la ŝtato, kiel memorurbo, kaj kie oni malpermesas konstrui modernajn domegojn. Blanka muro, oranĝokolora tegalo, verando kun diversaj helaj sudfloroj. La urbo valoras pentri el ĉiu ajn direkto. Iu diris ke ĝi tute similas al hispana pejzaĵo. Kaj Taxco estas urbo de arĝento, ĉar en 1716 grandan kvanton da arĝento fostrovis iu franco. Ĝuste tiam naskiĝis la minejurbo.

Ni atingis post unuhora flugado Oaxaca, kie junaj Esperantistoj atendis nin, kelkaj el ili partoprenis en la UK en Havano. Ni tranoktis tie tri noktojn. Iun vesperon por ni ili okazigis la Vesperon de Nacia Danco en la ĝardeno de la hotelo. Naciaj dancoj de diversaj regionoj kaj de etnaj indiĝenoj en kolorplenaj vestaĵoj estis okulfrapaj. Kune kun ni ĝuis aliaj gastoj de la hotelo kaj la aranĝanto faris spritan instrueton al tiuj neesperantistoj-gastoj, kiuj hazarde ĝuis ĝin, kiel salutu dancistojn kelkvorte en Esperanto. Tia interfluo inter Esperantistoj kaj neesp-istoj estas tre bona propagando de Esperanto, ĉu ne? Kelkaj el la junaj Esp-istoj en Oaxaca jam decidis partopreni ĉi-jaran Internacian Junularan Kongreson en Svedujo. Ŝajnas al mi, ke ili ĝuadas Esperanton.

Reveninte al la urbo Meksiko, la postkongresanoj unu la alian disiĝis, permesante revidon iam ie. Tiu etoso estas unika en nur Esperantujo. Jes, ĝis tiam mi devas plibonigi mian parolkapablon por plibone interkompreni kun tutmondanoj. Longe mi konvinkiĝis, ke la globo estas tre granda, tamen jam nun mi pensas, ke ĝi estas ne tre tiel granda, ĉar nuntempe diversaj homoj kaj aĵoj povas facile veni kaj iri tra la mondo. Tie Esperanto certe fariĝos bona helpanto.

Koregan dankon pro via legado longedaŭra!

人物詩評 ―― Rimportretoj (Kalocsay) より

A. HOŜIDA (Tomakomai)

かって札幌にエスペラント・センターを置いていた頃、先輩達が残してくれた本がたくさん本棚に並んでいた。その中で一つ目につき、面白くて訪れる度に手に取っていたのがこの本だった。

あそこにあった本、つまりHEL蔵書は、若干の曲折を経て、札幌大学の図書館に納められたがその後借り出したと言う話が無い。S－ro三沢に尋ねると学外の人にも貸し出している筈とのこと、それではと、何時もの様に苫小牧市図書館を通じて頼んでみた。

「この本の内容は何ですか」と聞かれたが、さてどう言えばよいのかな。ちょっと考えて「人物詩評です。批評でなく詩評。つまり詩で人物を論じた詩集です。」と答えておいた。

作者K. Kalocsayはあまりにも有名なEsp. 詩人の最高峰。同時に当時のEsp. 界をよく知る彼だからこそこんな本を出せたのだ、と思える。

この詩評の俎上に上ったのは当人Kalocsay を含めて58人、その一人一人の姿がよく表されていて興味深いが、そのトップに出てくる人、 Julio Baghy の所を紹介しよう。

この詩評は短い。一人について4行3連、計12行に最初の1行を繰り返した13行である。

Julio Baghy, homo homa.
Homecon serĉas malespere
Kaj luktas arde kaj kolere
Kun la milito sango-voma.

これが第1連。萱野茂のアイヌネノアンアイヌを思い出した。 アイヌとは人間のこと、しかし「悪い奴」はウェンペでアイヌという言葉は使わない、「人間」としての尊厳と誇りのこもった言葉がアイヌだ、そのアイヌを二つかさねてアイヌネノアンアイヌというと「人間らしくある人間、つまり立派な人」の意味になる――。 とのことだった。

第1行の homo homa は、これと全く同じ意味と感じられる。

Julio Baghy は、創始者ザメンホフは別格として、Esp. 界では最も親しまれ愛された作家と言えよう。彼のEsp. 作家としての生活は1922年、一次大戦中シベリアでの捕虜生活の中で感じたこと考えたことを書く事から始まった。第2行の Homecon serĉas malespere はその頃の、希望と絶望の間を揺れ動いていた捕虜達（彼の作品、Viktimoj ĝ Sur sanga tero に出てくる）を思い出させるが、それは又彼自身の姿でもあった。

絶望の中でなお人間性と希望を求めて行くこの姿勢から、彼はいわばHomaranismoの体現者として、Esp. －ujoにおける国民詩人のような存在といえる。

彼が読者として意識していたのは、Benczik によれば、Literatura Mondo が無視した simpluloj つまり文学的レベルの向上などには縁のないEsp-istoj大衆だった。この点Kalocsay とは大きく異なっている。Esp.-istoのレベルを引き上げるかわりに「彼は大衆の所へ下りて行き、そのレベルで書いた。」とBenczikは言っている。

第2連では彼の情熱を、第3連では彼の正義感の厳しさと優しさをうたい、そのあと最初の行をもう一度くりかえして終わっている。

En nokto de Malam' fantoma
La koron portas li fajrere,
Julio Baghy, homo homa,
Homecon serĉas malespere.

Pri ĉio misa, falsa, gnoma
Indignas li profet-severe,
Sed ofte ridas ni sincere,
Se ĉarmas nin per ŝerc' aroma

Julio Baghy, homo homa,

あとがき

今回札幌大学図書館からＥｓｐ．図書を借り出せることが分かった。わたしの場合この本がある筈と知っていたから良かったが、いったい何があるのかわからなければ利用もできないから、次にカタログを確認したい。

編集部より

札幌大学図書館から星田さんを通じてエスペラント関係の図書目録を入手しました。ご希望の方は編集部にご連絡頂ければお送りいたします。また図書の借用に関しても札幌以外の方の利用も可能ということです。どうぞご利用ください。

無料通信講座について

さきにＳ－ｒｏ切替がやっていた通信講座は、彼が鳥取に移ったとき、苫小牧エスペラント会が引き継ぐことになっていましたが実際には引き継がれず、講習生はもういないものと思っておりました。ところが第１課を終わっただけの講習生がいると最近注意をうけ、これはいけないと、再開することにしました。怠慢をお詫びいたします。

この講座は横浜のエスペラント通信教育センターでつくったもので第１０課まであり、各課Ｂ５判４ページで練習問題がついています。内容を読み問題の解答を担当（添削）者に送れば、次の課のテキストと添削結果が送られて来ます。

受講は無料ですが郵送料は負担して下さい。返信用封筒（あて名、６２円切手つき）を解答と一緒に送って頂きます。　再学習したい方、初めたいが講習会などのチャンスのない方などにお勧め下さい。申し込み、添削は下記へどうぞ。

〒053苫小牧市糸井３９３－８３　星田　淳

＇９０・ザメンホフ祭

佐藤　奈美子

12月15日 3時30分 ＇90年のｻﾞﾒﾝﾎﾌ祭が開催されました。私が入場したときには、もうすでに台の上に参加所が持ち寄った、ﾊﾞｻﾞｰの為の品々。(新しい鍋・ﾃｲﾌｾｯﾄ、ﾀｵﾙ、ﾊﾟｼﾞｬﾏ、ktp.)中でも感動したのが白と緑のﾌｪﾙﾄで手作りしたｴｽﾍﾟﾗﾝﾄﾊﾞｯﾁという作品もあります。

開会式の後、瀬川さんや馬場さんのｷｭｰﾊﾞでの世界大会のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽや楽しい様子等の報告と、歌のしおりが配られBonan tagon を4列に別れ輪唱し、ｱｸｾﾝﾄの強いVivla stero の合唱でTostoと、一気にｻﾞﾒﾝﾎﾌ祭が盛り上がりだした。また木村先生の流暢なNaskigitago de Esperantoの暗唱は、ｶｯｾﾄﾃｰﾌﾟを聞いているようでした。途中少しずつ参加者も増大、新しいSamideanojも三名ほど交えて25~30名程になりました。夕食のあとバザーが開始され、参加者の協力で大成功に終わりました。

参加者同氏の中でも、なかなか会う機会が無く、大会の時にしか会えないという人もいるせいか、食事の時などはあちらこちらから明るい声が途絶えない様子でした。自己紹介の一人一人の言葉はｴｽﾍﾟﾗﾝﾄに対する熱心な気持と、ｻﾞﾒﾝﾎﾌに対しての感謝の気持が感じられました。

大本の亀岡で年末からお正月にかけて行われたｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ講座に参加して、私はより一層ｻﾞﾒﾝﾎﾌへの感謝の気持が強まったと共に、これからは機会があればどんどん外国人に話しかけなければ、もったいないのだという事を思いしらされました。ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄに対して少し受け身がちだった自分に、会話の楽しさや、会話がどれだけ力になるかということを実際に体験したような気がします。とはいってもやはり力がついたと自信を持っては言いにくいのですが、自信をつけるためにはやはり会話が一番だと思います。これからもっともっと家の中でのエス会話を増やして行きたいです。

EL MANJO

防人に立ちし朝明の門出に

手離れ惜しみ泣きし子らはも(３５６９)

Ho vi,infanoj
ĉe la disiĝ` priĝemis
antaŭ la pordo,
kiam por rekrutigi
mi el la dom` elvenis.

大船を荒海に出しいます君

障むことなく早帰りませ（３５８２）

Sur mar` sovaĝa
navigas ŝipo via
sen help`,ho kara,
ve,vi revenu fruo
nur kun difekt` nenia!

夕されば秋風寒し我妹子が

解き洗い衣行きて早着む（３６６６）

Laŭ ven` vespera
aŭtuna vent` pli frida
penetras. Nu min
varmigu vesto de ŝi
lavita, rekudrita.

(木村 喜壬治)

北海道エスペラント観光案内試訳（４）

札幌　金森　美子

Oodori-parko kaj Televid-turo

Oodori-parko havas distancon de 1.6 km de Televid-turo la 1-a ĉoome ĝis la 12-a ĉoome.

En Oodori-parko oni okazigas eventojn trajare, Lilakan Feston en la tria tagdeko de majo, konkurson por florbedoj en la daŭro de printempo ĝis aŭtuno, kaj en la unua tagdeko de februaro Neĝfeston famekonata.

Troviĝas ŝprucfontoj ĉe la 3-a, 4-a kaj 5-a ĉoome. Skulptaĵoj diversaj situas ĉe la 2-a, 3-a, 7-a, 9-a kaj 10-a ĉoome. Ankaŭ oni povas apreci la skluptaĵon kaj la monumenton, kiuj estas senditaj de la ĝemelurbo Munkeno.

La televid-turo estas alta 147 metrojn kaj ĉe 90 metre alta parto de la turo situas la rigardejo, kaj en ĝi oni povas travidi tutan urbon Sapporo.

Nuntempe la turo ne funkcias por forsendi vidaĵon, ĉar ĝia maŝinaro jam estas translokigita al la monton Teine, situanta okcidente de la urbo.

Jam pasis tridek jaroj de kiam la lumhorloĝo estis ekipita sur la turo kaj nun ĝi komplete familiariĝis kun la urbanaro.

La horloĝo situas 60 metrojn alte sur la turo. Kvar ciferplatoj kun 2920 lampoj montradas tempon kaj ĝi estas la plej grandskala en Japanio.

大通り公園とテレビ塔

大通り公園は１丁目のテレビ塔から12丁目まで 1.6kmにわたります。

大通り公園では毎年、５月下旬にライラック祭、春から秋にかけて花壇コンクール、２月には有名な雪まつりが催されます。

３、４、５丁目に噴水があり、２、３、７、９、10丁目には彫刻がおかれ、姉妹都市ミュンヘンから贈られた彫刻と記念碑を見ることもできます。

テレビ塔の高さは 147mで地上90mの高さに展望台があり、そこから市内を一望できます。

現在、テレビ塔は送信用には使われていません。機材が街の西方、手稲山に移されたからです。

テレビ塔に電光時計が設置されてから30年たち、すっかり市民の時計として親しまれています。

この時計は地上から60mのところにあり2920個の電球が四方に時刻を知らせ、その大きさは日本一です。

この『北海道観光案内試訳』は札幌エスペラント会の女性会員がもちまわりで担当しています。

エスペラント運動私史（５）

小樽　山本昭二郎

加沢絹子さんのこと

７年間友人として付き合っていた samideanoの土田静子と結婚したのは1954年 3月末である。静子は中学校教員の学年末の休日があり、人足をしていた私にも年休が８日くらいあったので、それを活用した。今日のように婚前交渉だの同棲だのというのは当時の私たちの観念にはなかった。結婚式もあげず、双方の母親と兄弟一家と友人で合計21人。これが８畳２間で内輪の祝宴を開いた。友人というのは、札幌から田中夫人（静子の友人）高橋夫人（佳山やす子）、早坂基（E-isto、当時は小樽にいた）。並んだ料理はトンカツ、飯、味噌汁、漬物。赤玉ポートワインで祝杯をあげた。

翌朝、新婚旅行に出発した。行先は東京→大島→伊豆・伊東のコース。東京の兄一家は既に小樽転勤で宿を頼めないし、旅館の費用も勿体ないというので、私は塚原という友人（LEONTODOの初期の頃のカットは全部彼が画いてくれたし、『国際語近世史』のカラー表紙も彼がレイアウトしてくれた。E-istoではないが）のところへ、静子は加沢絹子さん宅へ一泊させていただくことにした。汽車が上野駅に着いたら、ホームに加沢さんが立っていて手をあげてくれた。静子は「加沢さんて美人ネ、感じのいい人」と安心した様子だった。

前年私が日本エスペラント学会を訪問したとき加沢さんに親切にしていただいたので、後日礼状を出したら「こんど上京された時は私宅に泊めてあげます」というので、図々しくもその好意を活用することにしたのである。当時、加沢さん宅は新宿で、叔母さんと弟妹の４人家族。叔母上「あなたたち何しに来なさった？」、静子「新婚旅行です。夫とは分宿です」、叔母上「ハハハ……そんなこと聞いたことない」と言われる。地位も財産もない、世間知らずの若者だからこんな厚顔なことが出来た、と今にして思う。でも相手が加沢さんで良かった。

翌日、塚原さんと私の嫁さんを迎えに加沢宅へ。それから夕方まで銀座などを歩いて時間をつぶした。夜、月島桟橋から出る大島行の汽船に乗るのに、ぐずぐずしていて間に合いそうにないので、塚原さんが心配してタクシーに乗せて送ってくれた。このタクシーは小さくて、今の 500cc車の半分くらいで、お茶箱を二つ並べてそれに運転手との４人が乗った感じである。土砂降りの中を走らせてやっと間に合った。なにしろ３月の東京は長靴を履いて行くべきか？　と迷った私たちである。

大島には朝着き、真黒な溶岩流の火口を見物し下山したが、あちこち道路沿いに赤い椿の花が見られた。夕方、船で伊東に上陸、群がる客引きを相手にせず駅に直行、駅の観光案内所に安宿を頼んだ。宿では新婚さんと思ったのか、子どもの掌くらいの小さな鯛が尾頭つきでお膳にのっていたので、私たちは思わずニッコリした。朝になって宿を出ると、あちこちの人家の塀ごしに大きな黄色い夏ミカンが色鮮やかだった。

東京に滞在したのは３日くらいで、一日横浜に出たとき静子の友人に電話したら、今迎えに行くから待ってなさい、今夜泊めてあげる、という。そこは金沢文庫というところで、どこの人家の庭にも白い貝殻が敷かれている。話を聞くと、毎日のように潮干狩りに出て蛤が小バケツ２杯はとれる、とのこと。桜の時期で大きなお寺の境内を散歩するとハラハラと桜の花びらが降ってくる。魚屋に行くと屋台の上で生きている鯵が何尾もはねている。しかし、どの魚屋にも貼紙がしてあり、

「当店のマグロは安全です。放射能はありません」とある。当時、第五福竜丸という漁船が鮪を満載して帰港の途中であったか、ビキニ環礁の水爆実験を目撃し、その放射能灰を浴びたとのことで、日本人はみな震え上がったものである。この友人夫妻には小さな男の子が二人いて、みなさんよくして下さったのは有難かった。

翌年夏、こんどは加沢さんが北海道に来るという。私たちが札幌三越のショーウインドーに見本としてあくびしていた三角型の布製テントを格安で入手したので、ぜひ一緒に道東をキャンプしましょう、と誘ったのに応じたのである。当時、私たちは家賃月 880円という格安のボロ家を借りて棲んでいた。うっかり敷居を踏むと障子がバタバタと倒れるような家。でも一国一城に住んでいるようで、若い私たちは意気軒昂だった。加沢さんは弟の國男さん（大学生）と一緒だった。お土産にいただいた中村屋の月餅が素晴らしく美味で、しかも大きく厚く餡も充実していた。２種類あって、ひとつは黒ゴマ入りの黒餡、ひとつはいろいろな木の実入りのもので、今でもその味が忘れられず、静子と時折話題にのぼる。今の横浜中華街にもあの味はないと思う。

翌朝早速出発。４人がテント、毛布、鍋、飯盒、若干の米・味噌などを持って汽車に乗り込んだ。美幌経由で南下するコースを選んだが、石北本線の沿線から眺められる風倒木には驚かされた。前年、かの有名な洞爺丸遭難（死者1430名）の超大型台風がエゾ松、トド松の森林地帯を横断していったのだが、地上１ｍくらいの高さで直径70㎝くらいの無数の大木をなぎ倒していった。キャンプの場所は屈斜路湖の和琴半島と阿寒湖畔である。阿寒湖畔ではテントを張ってから、いろいろな人から情報を集めたが、結局、夜中の12時に出発すれば雌阿寒岳山頂で御来光を見られる、と。４時すぎ山頂についたが、日の出で空が曙になる頃、寒くて寒くて毛布にくるまって４人ともガタガタ震えていた。荘厳な日の出を見て下山したが、毛布にくるまって歩いている髭だらけの私を集団登山の小学生が不審そうに見ていたのには苦笑した。

釧路にも寄り、私の友人に春採湖畔のソバ屋で盛りソバをご馳走になったが、全部道産のソバ粉で出来ていて、ソバがこんなに美味とは、と認識を一変した。一行は登別で右、左に別れることにし、この日は第一滝本館に宿泊したが、通されたのは小学生の修学旅行に使われる部屋。でも若い私たちは気にならなかった。ビールやら酒やらで酔いつぶれてしまい、朝、静子から聞いたのによると、真夜中、女性たち両名、温泉に入り加沢さんは見事なクロールをみせてくれたとのこと。

加沢さんとは久しくお会いしていない。４年前チャンスがあったが、彼女は仕事をどうしても抜けられないという。でも、またいつか会えるだろう。

88年11月に加沢さんは edzo を亡くした。Edzo は知る人ぞ知る福田正男さん（“Samideano ”誌編集・発行者）である。福田さんは昔、エスペラントで東欧と貿易をしようと提唱していたが、時機尚早だったようだ。ユニークな人が次々と故人となる。若者たちに言いたい。先輩たちと語れ、温古知新は今の今だ、と。

(91, februaro, 4)　つづく

福田正男（フクタ・マサオ）氏は1988年11月14日、闘病の末、亡くなられました。75歳。戦後、朝明書房の出版事業で“Samideano ”誌のほか多数のエスペラント図書の著作、発行、普及に貢献したことで世界的に知られています。

88年８月の第75回日本大会（札幌）に早くから参加申し込みし（Kongresa N-ro 171）、初めての北海道旅行を待望されていましたが、療養のため実参加できませんでした。　（編集部）

SAT-anoj de Sapporo Aktivas

De tuj post la imperiisma atako de Usona k.a. armeoj al Irako en januaro sapporaj junuloj, kiuj grupiĝis en kontraŭmilita-kontraŭnuklea kolektivo en Sapporo, rezolute manifestaciis per sidado sur la plej homplena strato en la urbego kontraŭ la murdedo. En la sidmanifestacio, daŭrigita ĝis la armistico ankaŭ Esperantistoj partoprenis kun protestoskriboj en Esperanto, la japana kaj la angla. Jen la deklaro kaj foto de tiuj Esperantistoj, agemaj SAT-anoj.

NE SUBTENU, SED ĈESIGU MILITON!

Milito murdas multege da homoj. Popoloj estas kaptitaj de ŝtatoj kiel garantiuloj. La registaroj, gardistoj por ŝtatoj, incitas popolojn murdi unu la alian, plantante naciismon aŭ patriotismon. Ŝtato estas samkiel Mafio, kiu batalas por profito k teritorio. La registaro ne povas reprezenti popolon, sed la regantan parton. Nun en Mezoriento ŝtatoj lasas popolojn batali unu la alian en la nomo de justeco aŭ sankta milito por profitoj de kelkaj regantoj: petrolo k superrego. Estas rimarkinde, ke eŭropaj ŝtatoj, kvazaŭ bando da vulturoj, estas dividintaj, potencintaj kaj ekspluatintaj Mezorienton.

Ĝis nun Usono samkiel aliaj grandaj ŝtatoj helpis diktatorojn, kiuj murdis multe da siaj opozicianoj, kaj agresis aliajn ŝtatojn, ĉie en la mondo. Usono kaj aliaj donis al kruela Hussein multajn armilojn, dum Irako militis kontraŭ Irano. Sed kiam Hussein fariĝis manaculo al Usono, freneza Bush decidis detrui la militan forton kaj puni lin. Kaj okazis tia afero, kiel li esperis: la agreso de Irako al Kuvajtio. Li deziris militi antaŭ ol ekonomia blokado efikas kontraŭ Irako. Li rapidis. Nun Bush punas lin, murdante senkulpan popolon. Kvankam ili ne povis murdi garantiulojn de eŭropaj civitanoj, kial ili tamen povas murdi garantiulojn de irakaj civitanoj kaptitaj de Hussein? Kaifu oferis al la Bandestro Bush faskojn da bankbiletoj, el kiuj sango gutas. Ili estas ŝtelitaj de ni. Ĉu ni povas uzi petrolon malpuran per sango kaj karno?

Milito estas ne taŭga rimedo por solvi konflikton. Eĉ se Usono venkus Irakon, aliaj murdegoj sekvos tion pro malamikeco en Mezoriento. Malamikeco kaŭzas alian malamikecon, kaj sango alian sangon. Necasas haki tian ĉenon. Ni enuas kaj koleriĝas pri tio, ke Usono fiinventas la tro malnovan vesternon, en kiu la justaj kavalerianoj aŭ ŝerifoj pafas la indianojn aŭ eksterleĝulojn.

Bush, ne militu!
Kaifu, ne subtenu la militon!

La manifestacio daŭris kvardek tagoj ĉe la metroa stacio Oodoori en subterkvartalo, ignorante avertojn de policistoj. El la foto salutas tri SAT-anoj en Sapporo. De maldekstre: gek-doj Gotoo Zyoozi, Sato Eiji kaj Tomita Minako.

読書ノートから

須藤　昭三

La fermita urbo　István Nemere 著
（ハンガリー，1982年刊，128p. 1400円）

ネメレの第二作だそうである（辰巳慶樹・エスペラント文芸の森を散歩する〈5〉RO 1989年11月号）。La naua kanalo が彼のデビュー作で、1981年とある。こちらの方には「前書き」で編集者と著者とのインタビューがあり著者の側面を知ることが出来るし、珍しくボールペンでネメレのサインがある。5冊目でデビュー作を手に入れ、人柄を知ることが出来た、など自分の頓馬な神経をさらけ出すようで赤面する。

La femita urbo――主人公マルクは大学の研究コンクールで一位となり科学研究所を選択する権利を獲得した、2509年 2月14日生まれの精神社会学を専攻する24歳の若い科学者である。彼の卒論は“閉鎖されたグループにおける閉所恐怖症の社会的外観”で、来月専門誌に発表されると世界テレビが50秒のルポを報じていた――という、「空想科学小説」である。作家というのは何を考えているのでしょうね、まったく。

それでマルクはソウルルンドの小高い山の上にある有名な研究所を選び、自家用機で乗り付けプラット所長と会う。快く彼を迎えた所長は研究テーマを決めるまでの十分な時間を彼に与えてくれる。一週間後、研究所の周囲をジョギングしていたマルクの目に入ったものは太い直径のケーブルと大きな換気装置だった。秘密を感じた彼は父親と42年前一緒に仕事をしたエルニという黒人の研究所管理人に相談する。エルニは研究所で消費される明細書を彼に見せてくれる。膨大な量だった。また研究所に隣接している誰も入れない建物も奇妙だった。時折叫び声が聞こえてくる。マルクがプラット所長に尋ねると、彼は余計なことを心配せず、ここで働くつもりなら自分の研究テーマを早く決めることだ、と顔色を変えて追い返される。

それなら決行だ、といって単身換気装置トンネルに 300㍍の縄梯子と 100㍍のロープを持って潜入する。そこは2365年高等裁判所の決定で、石の採掘場だったところを改造して作った犯罪者を隔離するための場所で、現在その子孫たちが中世さながらの生活をしている世界（町）だった。あのケーブルは人工太陽のエネルギーを送るものだった。最初 150人程の重罪人が記憶を抜き去られ連れて来られたもので、上の世界を全く知らなくされていたし、その子孫たちもこの町しか知らなかった。しかし生活は平和だった。

突然どこからか三人の男が現れ支配者となるが、やがて彼らの権力争いが始まる。実は彼らは上の研究所の科学者で、テレビカメラで下の町を監視し、無線で彼らと連絡しているのが何とプラット所長だった。住民を助けようと光線銃を手にして戦うマルクは捕えられる。帰らないマルクを心配したエルニが世界政府機関に訴える。この告発を重大視した大統領は調査団の派遣を命令し、また女性だけで編成された特殊部隊は銀色の服に身をつつみ光線銃を持って地下潜入を開始する。

（室蘭エスペラント会）

Jingchuan 1991-02-05

Kara samideano Tameo Nitta:

saluton!

Mi tre ĝojas, ke mi trovis vian adreson en la jarlibro 1986. Mi ne scisa, ĉu vi deziras korespondi kun mi?

Mi nomiĝas Huang Yinbao. Mi estas agronomo, agrikultura sciencisto, oficisto de Scienco-Teknika komisiono de Jingchuan Gubernio, vicprezidanto de Jingchuan-a Esperanta Asocio, prezidanto de Scienco-teknika Sekcio de Jingchuan-a Esperanta Asocio.

Mi naskiĝis je la jaro 1962. Mia oficloko Jingchuan Gubernio ankaŭ estas mia hejmloko kaj naskloko. Jingchuan troviĝas en nordo de Ĉinio, kaj proksimas al Xian Urbo.

Mi invitas vin viziti nian Gubernio Jingchuan. Se tempon vi havas, mi senpage gaston vin, kiam vi kaj viaj amikoj vizitos mian urbon. Se vi vizitos aliajn urbojn de Ĉinio, petu ke ĉinaj urbanoj telefonu al mi laŭ mia adresso.

En lastaj jaroj, ni plantas en nia Gubernio la japanajn poligonojn, kiuj estas plej bonaj en nia gubernio. La poligonojn elvenis el la japana regiono Hokkaido(北海道). Oni nomas la poligonojn "Hokkaido-aj poligonoj"(北海道蕎麦) . Oni ŝatas la poligonoj. sed oni ne scias, kiel elfaras la nutrvarojn de poligonoj la popoloj en japanio. Ĉu vi povas konigi sl mi, kiajn poligonajn nutrvarojn vi japanoj elfaras per ĝi? Kiom da specoj de poligonaj nutrvaroj troviĝas en japanio laŭ via informo? Skribu al mi iliajn nomojn en esperanta kaj japana lingvo. Ĉu mi povas interŝangi la poligonajn nutrvarojn kun vi per viaj ŝatataĵoj de nia lando? Se jes, alsendu al mi iom da nutrvaroj, kaj sciigu al mi kiojn bezonas vi. Ĉu mi kaj miaj kunlaborantoj povas viziti la fabrikojn de la poligonaj nutrvaroj? laŭ mia informo, vi japanoj elfaras la nutrvarojn "sekigitajn vermiĉelojn"(aŭ "sekigitajn spagetojn"). Ĉu vere? Se yes, ĉu mi povas ricevi iometajn "sekigitajn vermiĉelojn" kaj viziti la fabrikojn? Se mi povas viziti la fabrikojn, ĉu mi povas peti la fabrikojn sendi ai mi invitkartojn per la internacia kaj la japana lingvo. Ĉar la registaro ne permesos min kaj miajn kunlaborantojn viziti vian landon,se ni ne ricevus la invitkartojn.Atinginta japanio, ne ankaŭ vizitos japanajn espetrantistojn.

Nun mi kompilas la libron "Moderna Agrikultura Scienco". La libro kolektos la artikolojn pri agrikulturo kaj la agrikulturajn sciencajn verkaĵojn el diversaj landoj. Mi petas, ke vi konigi la informon al la japanaj eaperantistoj. mi dankos iliajn verkhelpojn kaj monhelpojn. El donejo eldonas la livron. "Poste mi eldonos la livron "Moderna Scienco" (aŭ "Internacia Scienco"), Kiu kolektos la artikolojn el diversaj landoj.

Antaŭdankon!

Multajn donojn al vi!

via samideano:

Huang Yinbao

Adoreso: Jingchuan Xian Kewei GANSU . 744300 China(Cinio)

Karaj legantoj de ci tiu bulteno! Mi prezentas jene la leteron, Kiu estas al mi sendita aerposte ne atendite de Ĉina juna samideano en la 15-a tago de Februaro. Kaj mi esperas (aŭ petas) ke iuj el vi,legantoj, bonvolu akcepti lian deziron. Juni, Tameo NITTA

由仁の新田さんからで中国から蕎麦についてに興味のある方から文通依頼がありました。自分で打つことができるかた、ご存じの方はどなたでも結構ですこの青年の願いをかなえてあげてください。希望される方は編集部までご連絡を。手紙には美しい切手が貼られていてなかなか興味深いとのことです。

１９９１年　第1回　連盟委員会　議事録

日　時　　1月26日　17：20　～　19：40
場　所　　札幌駅構内　ライラックバセオ　及び　アサヒビール園
出席者　　星田　カワハラ　馬場　阿部　横畠　児玉　須藤　渡辺
議　題　　1）91年活動方針　　2）5月の合宿　　3）業務の分担　　4）その他
議事顛末　議題1）91年活動方針

星田委員長より今年度の意向について、連盟の活動の軸は、機関誌、合宿、大会の三であるので本年もこれらを推し進めたいとの表明があり、一同これに同意した。

議題2）5月の合宿

5月3日（金）～5月5日（月）、札幌滝野、札幌市青少年山の家にて行う予定。講師は未定。合宿実行委員会によりプログラム等を作成する。

議題3）業務の分担

委員会内の業務の分担について再確認した。機関誌については、偶数月に発行したいので、投稿などの〆きりは奇数月の末とする。

議題4）その他

大　会　）第55回大会は9／28～29、札幌で行う。SES により会場を選定する。
記念事業）92年は HELの60周年であるので、星田をチーフとしたプロジェクトチームを作る。
通信講座）苫小牧エス会に委託して再開する。
広　報　）機関誌の寄贈先を広める。

以上

事務局日報

90－11－30　エスペラントの世界 1990-11　関連記事；「海外誌による海外の動き」北畠瞳
90－12－10　PONTETO N-ro 121 1990.12.01　記事；JEIの理事改選、他
90－12－15　VERDA MONTETO N-ro 62 Decembro 隔月刊 1990（和歌山）　内容；イギリス人気質、他
90－12－21　LA JAPANA BUDHANO n-ro 245, n-ro 246（日本仏教エスペランチスト連盟）内容；245 修証義　246 緑の指輪、他
90－12－23　La MOVADO N-ro 478 dec.1990　記事；第39回関西エスペラント大会速報、第78回日本エスペラント大会予告［大会テーマ：吹く風はエスペラント、91-8-24-25 吹田市］
90－12－25　La Tamtamo n-ro 207 oktobro 1990 / Lernantoj 1990年10月号 / Novvaĵoj Tamtamas oktobro 1990（横浜エスペラント会）；横浜エスペラント会刊行物カタログ
90－12－26　星田委員長より、委員会開催の案内状を発送するよう依頼があった。
90－12－27　PONTETO N-ro 122 1991.01.01　記事；JEI理事長交代、他
90－12－30　HEL会員　伊藤直樹氏宛HEROLDO、あて所なしにつき返送
91－01－03　La Tamtamo n-ro 208 novembro 1990　同 209 / Novaĵoj Tamtamas n-ro 53　同 54 Lernantoj 1990 11　／機関誌購読の依頼　（横浜エスペラント会）
91－01－03　ESPERANTO EN AZIO numero 3 decembro 1990（韓国）
91－01－09　パンフ「地球語エスペラント」１９９１年１月版（沼津エスペラント会）
91－01－17　エスペラントの世界 1990 12月号
91－01－18　SOMERMEZA ESPERANTO-RENKONTIĜO の案内（ヘルシンキ　エスペラント　クラブより）
91－01－21　La Movado N-ro 479 jan.1991　記事；第39回関西エスペラント大会［6／22～23、神戸タワーサイドホテル(22日)、芦屋ルナホール 及 芦屋市民センター（23日）］
91－01－26　１９９１年度第1回連盟委員会開催（上記）
91－01－28　Mejlstono N-RO 102 JANUARO 1991（仙台）　内容；仙台エスペラント会1991年度総会報告
91－01－28　La Verda Tero N-ro 31, januaro, 1991（東北エスペラント連盟）　内容；第31回東北大会成功、岩手県宮古短期大学で必須ゼミ「国際語エスペラント」開講
91－02－01　PONTETO N-ro 123 1991.02.01　記事；第40回関東エスペラント大会［6／29～7／1、千葉県柏市中央公民館（予定）］
91－02－02　パンフ「地球語エスペラント」１９９１年２月版（沼津エスペラント会）
91－02－04　YoJo SENLIMA N-ro 114 Jan.'91.　記事；第65回九州エスペラント大会［4／20～21 ＮＴＴ熊本会館］
91－02－05　La Tamtamo n-ro 210 januaro 1991 / Lernantoj 1991年1月号 / Novaĵoj Tamtamas n-ro 55 januaro 1991（横浜エスペラント会）
91－02－05　第76回世界エスペラント大会ベルゲンへのカラバーノ案内（東京エスペラントクラブ）
91－02－06　エスペラントの世界 1991-1　関連記事；「海外誌による海外の動き」北畠瞳
91－02－09　VERDA MONTETO N-ro 63 Januaro 隔月刊 1991（和歌山）　記事；LETERO EL-ESTONIO、他
91－02－13　第24回エスペラント全国合宿の案内［5/3～6、埼玉県 国民宿舎 入間グリーンロッジ］

訃報　今官之助氏

敗戦直後、由仁エスペラント会の創立に参加し、新田為男氏、岡本義雄氏とともに由仁町でのエスペラント運動を指導した今官之助（コン・カンノスケ）博士が昨年（1990年）02月11日、呼吸不全のため札幌市北区の勤医協北区病院で逝去した。84歳だった。今氏について、昨年の北海道大会で新田氏があいさつのなかでふれていた（本誌前号参照）。

今氏は1905年生れ、新潟医大在学中にエスペラントを学び、無産者診療所運動を支援した。43年から49年まで町立由仁病院院長。45年から講習会を精力的に指導したが50年以降はエスペラント運動の第一線から退かれていた。49年に北海道勤労者医療協会創立に参画、室蘭、小樽、鵡川で医院を開業、のちに札幌で勤医協診療所所長として地域の医療と福祉に貢献された。

今氏は今年３月の第44回解放運動犠牲者合葬追悼会で顕彰・合葬される。

★今号の発行が終われば今度はＥＶＡ（エスペラント婦人協会の機関誌）の原稿あつめです。それが終われば５月の合宿、そうするうちに世界大会。金森美子さん、児玉広夫さんと私が参加予定です。

★年明けの Heroldoなのに Feliĉan Novjaron がいえません。今年は友人の安否を気づかわなければならないなんて残念です。　（ＢＥ）

★亡くなった今氏は故山賀勇氏と同年（1905）生れで、しかも同学（新潟医大卒業）。つながりがあったはずです。ご存じの方、おしえてください。

★最近の世界と日本の情況にけっして無関心ではありません。誌上でいわないだけです。　(Kk)

会費納入のお願い

年も改まり、事務局からの連絡にもありますように、今年度の活動計画も決まり５月の北海道合宿のご案内をお送りするときも近いと存じます。

さて、現在北海道エスペラント連盟は、規約で会費を年額2000円と定め、会員のみなさんから頂いております。定期的納入ありがとうございます。この2000円の中にはお手元の Heroldo de HEL はもちろんのこと、連盟の各種サービスをお受けになれる特典が含まれています。連盟の通信講座につきましても「ずいぶん前にやったきりで、今さら勉強もなんだが……」という方にお薦めできるものです。

全国的な雑誌（ラ・レヴオ・オリエンタなど）を購読されるのもとても大切なことですが、より身近な存在としてのエスペラントに触れたいとお考えなら、北海道エスペラント連盟にご加入ください。希望者はどなたでも入会できます。

広い北海道にポツンとひかる緑の星はやがて輝きをますことでしょう。

今回、郵便振替用紙を同封しました。ご協力よろしくお願いいたします。　（ＢＥ）

郵便振替口座番号は　（念のため）

小樽　０－１７０７５

北海道エスペラント連盟

★　Heroldo de HEL

第３８号　(1991, jan.－ feb.)

北海道エスペラント連盟機関誌　年６回

編集部：001 札幌市北区新琴似7-8-5-34

馬場恵美子気付☎011-761-8060

郵便振替口座：小　樽　０－１７０７５

北海道エスペラント連盟